

国分寺市民のいのちと生活を守る！



すぐに取り組みたい3つの課題

① PFAS 水汚染の徹底調査と情報公開を

健康被害を招くPFAS(有機フッ素化合物)水汚染に対して、市民の不安が広がっています。市民団体による検査が公表され、血中濃度がアメリカの指標を超えた人は93%、ドイツの指標を超えた人は29%というショックな結果でした。

また、欧米では、PFASの規制について、日本よりはるかに厳しい基準をもうけようとしています。日本では、飲用水の目標値(規制の必要なし)が1ℓあたりPFOSとPFOAの合計で50ngですが、

アメリカではPFOS・PFOAそれぞれ4ngを規制値とすることが検討されています。「健康不安に適切に対処」し、「住み続けたいと思えるまち国分寺」のために国分寺市に求めます！

- ① 都や国と連携し、井戸水・水道水・地下水に加えて土壌の汚染実態を調べ、汚染源を特定する
- ② 市民の健康への影響をみるための血液検査を進め、その結果・情報を市民に伝える

日米の飲み水の基準

国	数値(ng/l)
アメリカ	PFOS:4 PFOA:4
日本	PFOS、PFOA合算で50

米独の指標値を超えた国分寺市民の割合(n=65人)

アメリカの指標値超	93%(61人)
ドイツの指標値超	29%(19人)

② 中学生全員にできたてのあたたかい給食を

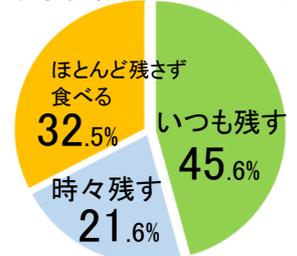


中学校給食のアンケート

中学校給食が冷たい弁当なのは、都内では国分寺市含めて3市だけ。残す割合が高く、食品ロスにもなっています。

工場で作っている「デリバリー式」では、あたたかい給食は実現できません。

自校式、親子式など、さまざまな可能性を保護者や生徒も参加して検討し、できることから始めませんか。また、学校給食の無償化を進める自治体が増えていきます。国分寺市も続きましょう。



22年7月「中学校給食のアンケート」より

③ 電気代高騰！「エネルギー貧困」知っていますか



電気代の値上げで冷暖房の使用を我慢する人が増えています。健康な暮らしに必要なエネルギーを享受できない「エネルギー貧困」世帯は関東では約6.8%とも指摘されています。とりわけ、入浴中のヒートショックによるお年寄りの健康が心配です。

エネルギー貧困世帯を中心に、省エネ機器の購入支援などを、東京都と連携して拡充してはどうでしょうか。気候危機対策にもなります！

入浴中の死亡者数(2010~19年の平均)

~39歳	40~59歳	65歳以上
20人	71人	1,270人

もっと！人に寄りそうグリーンな国分寺へ！

鈴木ちひろ

